受理番号及び受理年月日	所管	件名及び要旨	提出者
28年－29 (28.11.22)	危機管理 関連陳情 生活環境 28年－30 農林水産 28年－31 総務 28年－32	**鳥取県中部地震を受けた防災体制の強化（物資・避難所関係）について** **▶陳情理由** 10月21日の午後２時頃、鳥取県中部を震源に発生した震度６弱の地震は、まさに青天の霹靂であり、家の倒壊や瓦の落下など大きな被害をもたらした。まず、地震で被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げる。 そして、倉吉市や鳥取県など、行政現場の方は、休日返上、徹夜で、部局関係なく支援にあたられており、心より敬意を表するものである。避難所で支援にあたられた行政職員の方は、現場のニーズを汲み取ろうと必死の支援をされていた。 街は、地震で不安をかかえた人々ばかりの何とも言えない空気。断水したため近くのスーパーに水を買いに行くと、瓶が割れ、商品が散乱していた。そんな中、県は発災よりただちに見回りのヘリを飛ばし、他県からも応援に駆けつけてくれるなど「見守られている」感があった。知事も被害状況の確認のため、速やかに現地入りされた。こうした迅速な行動・判断は、被災者の方にとって、大きな心の支えになったと思う。 一方、倉吉市において、市庁舎自体が破損して災害対策本部が置けず、急遽県の総合事務所に間借りして本部を設置するに至ったことなど、当初の想定と現実が乖離し、「想定外」の事態も起きた。あってほしくはない"今後"に備え、想定外の事態を作らないことが必要である。 このたびの地震では、屋根を覆うためのブルーシートについて、当初役所での配布を受けたい人が殺到して数が足りず、被災者の方々が困ったとの声を聞いた。雨が降ると、瓦の下が傷むので、直ちに手当てしなければならない。また、ボランティアのニーズとサプライサイドのミスマッチ、すなわち、屋根の上に登る高所での作業は、危険を伴い一定の技術も必要なため、ボランティアセンターが欲しているこうした作業ができる人員が不足し、県外から支援チームが駆けつけたほどである。	足羽佑太 （倉吉市）

		避難所においては、パーティションの設置がなされておらず、職員に聞くと「届いてはいるけど、被災者の方から要望がないし、ここまで何ともなく来たので、やっていない。要望があればやる。」と言われていた。 しかし、パーティションの存在を知らない人も多く、自分から「欲しい」というだろうか。実際被災者の方に聞くと「子どもがいるし、授乳のときほしい」、「子どもは区画された方が大人しくなるかも」と、欲しい様子であった。 また、当初は避難所に毛布がなく寒かったとの声を多くの被災者から聞いた。各避難所における備蓄体制を強化することが必要である。また、制限食（カロリー、糖質、たんぱく質など）の摂食が必要な方などに対して食事面・血圧や服薬などでのケアなどをするため、管理栄養士や医師などが定期的に巡回するなどして、サポートする体制を構築すること。また、パンや冷たいおにぎりだけではなく、温かい食べ物や飲み物が欲しいとの声を聞いた。近くの避難所には、鳥取城北高校相撲部や鳥取西高校などからの、ちゃんこ鍋の炊き出しなど、民間レベルでの支援があることは素晴らしいことで感謝申し上げるが、民間の支援はあくまで例外である。 **▶陳情趣旨** 1　屋根を覆うためのブルーシートについて、当初役所での配布を受けたい人が殺到して数が足りず、被災者の人々が困ったこと、また、ボランティアのニーズとサプライサイドのミスマッチについて解決策を検討すること。 2　避難所においてパーティションの存在を知らない人も多いことから、行政サイドだけで「大丈夫だろう」と判断するのではなく、こういうきめ細かい所にも被災者の方　のニーズを汲み取ること。 3　各避難所における備蓄体制の強化、制限食の摂食が必要な方などへの食事面・血圧や服薬などのケアのためのサポート体制の構築、温かい食べ物や飲み物の提供など、行政サイドが当初からこうした支援を想定すること。	